

国 語

次の文章は、今井むつみ『ことばの学習のパラドックス』からの一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、原則として句読点やカッコは一字に数えます。

子どもは驚くほどことばの習得が速く、^a巧みである。たとえば、家族で海外に転居したとき、両親が（A）現地の言語を覚えられず、アしている間に、子どもは瞬^bく間にマスターしてしまい、両親のために通訳をするようになるという話（B）耳にする。また、この前会ったときには全然おしゃべりができなかった子どもが、数ヶ月後にはすっかりおしゃべりになっていて、びつくりすることもよくあることである。

子どもは1歳半から6歳くらいまでの間に、1日に5〜10個の割で新しいことばを語彙に加えていくといわれている。この期間のことばの学習は、国語の授業などでのそれとは違い、新しいことばの意味の定義や用法を教示されることはほとんどない。子どもは、ことばの発話にトモナ^アう「指さし」や親の目線などの、ある意味では非常に曖昧な手掛かりから、発話された音の連^cなりを「意味」と結びつけていくのである。

実際、子どもが初めて聞くことばに意味を付与^dする速さと巧みさには目をミ^イハるものがある。子どもに新しいことばを教えるのに、養育者は身の回りの事物をひとつひとつ指し示し、このことばはこの事物に対応する、などとイに説明したりはしない。それでも、子どもは瞬^bく間に新しいことばを覚え、語彙を増やしていくのである。子どもはたった一度聞いただけで、少なくとも部分的に外界と意味の対応づけを行っていることを示した実験があるのでそれを紹介しよう。

ケアリーとバートレットは、^ウヨウチ園での日常活動で園児に「クロミウム」というナンセンス語を色の名前（オーリーブ色）として導入した。たとえば、子ども達がおやつ^ウの準備をしているときに、ひとりひとりに、「クロミウムのお盆を持ってきてちょうだい。

青いのじゃなくてクロミウムのよ」とか、「クロミウムのコップをとつてちょうだい。赤じゃなくてクロミウムよ」と話しかける。「クロミウム」という造語の導入は1回きりであり、特にそのことばを強調するような話し方は一切しない。

1回きりの導入で、ほとんどの子どもは正しいお盆やコップを選ぶことができた。ケアリーとバートレットは、6週間後にもう一度テストを行い、この一度だけ導入された「クロミウム」ということばが子どもの中に保持されているかどうかを調べた。6週間前に「クロミウム」ということばを聞く以前には、ほとんどの子どもがオリーブ色を「みどり」か「茶色」と呼んでいた。しかし、6週間後のテストでは、「わからない」と答えるか、「灰色」などの、その子どもにとってまだしつかりと色とラベルの対応づけがされていない色の名前を答えた。つまり、「クロミウム」の導入により、「あ」ということを子どもは学んだのである。つまり、新奇な色の名前をただ一度、導入しただけで、色の領域での子どもの心的語彙の構造が変わり、それがずっと保持されていたわけである。この非常に簡単な実験から、子どもは、たった一度新しいことばを導入しただけで、そのことばを特定の概念領域に対応づけ、それにより、既存の表象を再編成する、ということが示された。この現象はケアリーとバートレットによって、即時マッピングと名づけられ、他の研究者によっても追認されている。

この即時マッピングは、(C) 何でもないことのようにみえる。私達大人にとつて、「リンゴ」という音の連なりが「りんご」という赤くて丸い(しかし、時には黄色や緑があったものもある)、甘酸っぱい味のする果物を指すことは当然のことに思える。そして「リンゴ」ということばを聞いたとき、それは他の赤いもの、たとえば消防車などは指さず、ボールなどのような他の丸いものも指さず、さらにはトマトのように赤くて丸い果物(野菜?)も指さない、ということをごく当たり前のこととして受けとめている。しかし、「リンゴ」という音の連なりが、私たちの意味するところの「りんご」だけを指し、他のものを指さない、と確定することは、実は、論理的には非常に難しい問題を含んでいるのである。

哲学者クワインは、ことばの指示対象を確定する際の論理的な難しさを次のように私たちに投げかける。たとえば、言語学者が言語の調査のために他の社会から遠くカクゼツエされた地に行き、そこで現地人のことばを観察し、その現地語と言語学者の母国語とを対応づける辞書を作ろうと試みるとしよう。言語学者は、現地のことばを全く知らないので、現地人の発話を状況と対応づけ、

発話の中のことばの意味を推測するしかない。

たとえば、現地人がウサギを指さして「ガヴァガイー」という発話をしたとしよう。そのときに（D）^えどうしたら、その言語学者は「ガヴァガイー」の意味を正しく確定することができるだろうか？ それはたぶん「ウサギ」だろうと思う。しかし、他の可能性も否定できない。実際、可能性はほとんど無限にある。それはウサギの色を指しているのかもしれないし、「ふわふわした毛を持つ動物」かもしれない。ウもない仮説だが、「ニンジンを食べているウサギ」とか「晴天の日に見るウサギ」という可能性も絶対ないとはいえない。これらの仮説のいくつかは検証することができる。たとえば、「ウサギの色」説を検証するためには、ウサギ以外の白いものを指さし、「ガヴァガイー？」と聞けばよい。「ニンジンを食べているウサギ」説の検証のためには、ニンジンなしのウサギを指さして「ガヴァガイー？」と聞けばよい。しかし、検証が絶対不可能な仮説もある。どのような状態でもどのようなウサギを指さして「ガヴァガイー？」と尋ねても、ガヴァガイーの意味が「ウサギ」ではなくて「切り離すことのできないウサギの体の一部」だという可能性を完全にハイジ^オョすることはできない。

クワインのこの有名な疑問は、子どもがことばを学習していく過程で、どのように未知のことばに意味を付与していくかを説明する際に、そのまま投げかけられるものである。何度も繰り返すようだが、日常生活の中で大人が幼い子どもに語りかける時、多くの場合、ことばは、ひとつの指示物に対し、ラベルづけという形で発話される。たとえば、遊園地で檻の中にいるウサギに対し「ほら、ウサギさんよ」という。その時、ほとんどの場合、「ウサギ」ということばがどういう意味なのか、何を指すのかを説明しない。「これはウサギだけど、あれはウサギじゃない、あれも違う、でも、ほらあそこの、ちよつと離れたところにいるの、あれは、毛が茶色いけど、これと同じウサギなの。ウサギってね、動物の仲間だね、毛が白くてふわふわしてて、耳が長くて目が赤くて、でもときどき茶色や、灰色のものもあるのよ。ハムスターにちよつと似てるけどハムスターとは違うの」などと言ったりはしないのである。

では、子どもはどのようにしてことばの指示対象を曖昧な状況から確定していくのだろうか。

（中略）

子どものことばの学習において、ひとつはつきりしていることがある。それは、子どもが新しいことばを聞いたとき、クワインの言語学者のように、そのことばの意味のさまざまな論理的可能性を全部いちいち吟味したりしない、ということである。また、ことばの指示対象に対する概念が成熟するまで、そのことばを他の事物に拡張するのを待ったりはしない。

先にも述べたように、子どもは多くの場合、初めて聞くことばの意味を瞬時に推測し、そのことばに暫定的な意味を付与している。しかも、子どもの推論は大筋において正しく、大人の発話者が指示する対象とだいたい一致する対象を新しいことばに対応づける即時マッピングを行っている。では、この即時マッピングを可能にするメカニズムは何だろうか？ その答えとして、近年主流になってるのが「制約」という考え方である。

「制約」というのは文字どおり、人間の行動を「制約」し、ある特定の方向に導くものである。したがって、「制約」自体は人間の外にあるものでも内にあるものでもよい。たとえば、交通の法規は私達が自動車を運転する際にどのような行動をとるべきかを外から「制約」する。高速道路で時速150キロで走りたくても、それが見つかれば罰せられるため制限速度を守っている人は多いだろう。

しかし、最近の認知発達心理学の領域で「制約」ということばが使われる場合、ほとんどそれは外から加えられるものではなく、子どもが内的に持つ「概念的枠組み」とか「認知的バイアス」と考えられている。この「概念的枠組み」あるいは「認知的バイアス」は、学習に際して、子どもが行わなければならない探索の範囲を狭め、吟味しなければならぬ可能性を狭めるものである。

制約の考え方は、子どもが世界の基本的な概念の区分や概念的法則を生まれながらに、あるいは少なくとも学習が始まる以前に持っており、そのような知識がその後の学習の土台、骨格となる、とするものである。いいかえれば、発達の最初から子どもに内在する(つまり子どもが生得的に持つ)知識や認知的なバイアスが後の学習を導き、「制約」する、と考えるのである。

* 問題作成の都合上、文章の一部を省略・変更しています。

問題

問1 ー線アゝオのカタカナを漢字になおしなさい。

問2 ー線aゝeの漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問3

ア

ウ

 に入れるのに最もふさわしい語をそれぞれ次から選び、番号で答えなさい。同じ番号は一度しか使えません。

- 1 五里霧中
- 2 突拍子
- 3 懇切丁寧
- 4 四苦八苦

問4 (A) から (D) に入れるのに最もふさわしい語をそれぞれ次から選び、番号で答えなさい。同じ番号は一度しか使えません。

- 1 いったい
- 2 なかなか
- 3 一見
- 4 もちろん
- 5 しばしば

問5 【あ】に入れるのに最もふさわしい内容を次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「クロミウム」というのは色の名前である
- 2 オリーブ色は「クロミウム」という名前である
- 3 みどりでも茶色でもない、別の名前の色がある
- 4 みどりと茶色の両方の色を「クロミウム」と呼ぶ

問6 〓線い「即時マッピング」を説明している部分の最初と最後のそれぞれ五字を書きなさい。

問7 〓線う「非常に難しい問題」とは、何が難しいのか、本文中の言葉を使って十五字以内で答えなさい。

問8 〓線え「どうしたら、その言語学者は「ガヴァガイー」の意味を正しく確定することができるか」とありますが、筆者ができると思っているか、できないと思っているかどちらかを○で囲み、その理由を書きなさい。

問9 〓線お「仮説」として「ガヴァガイー」がどのようなことを指すとする具体例が挙げられていますか。すべて書きなさい。

問10 〓線か「概念的枠組み」「認知的バイアス」は子どものことばの学習にどのような役割を果たしますか。最もふさわしい内容を次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 新しいことばの意味について、論理的可能性を全て吟味する
- 2 そのことばを他の事物にも拡張させ、指示対象に対する概念を成熟させる
- 3 はじめて聞いた言葉に、瞬時に正確な意味を付与する
- 4 ことばの意味を推論する際、吟味する可能性の範囲を狭くする

問11 〓線「子どもはどのようにしてことばの指示対象を曖昧な状況から確定していくのだろうか」とありますが、その答えは何でしょうか。「制約」ということばを必ず使って、百五十字以上二百字以内で説明しなさい。